

現代に期待されるへき地・小規模校教育研究センターの 全国的役割と社会的使命

—少子化・小規模校化の中での全国的な人材育成への期待—

北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター
センター長 玉井康之

1. へき地・小規模校教育研究センターの歴史的発展と現代に求められる期待

2018年4月に北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター（以下へき研センター）は、新たなセンターとして再編をし、学校現場との密接な関係を強化すると共に、全国的な役割を担うことができるように機能を拡大してきました。北海道教育大学の草創期のへき地教育研究施設は、戦後の混乱期でもある1949年に「教育研究所」として設置され、1954年に「僻地教育研究所」と改称されました。それ以来70年にわたって研究を蓄積すると共に、組織再編も歴史的に何度か経て活動を拡大してきました。そして全国的な役割を果たすために、先の2018年に再度へき研センターとして学内組織を強化することになりました。

この組織強化が求められる背景は、一つは、全国的に少子化の中で学校規模の小規模校化が進行し、学校統廃合だけでは対応できず、へき地・小規模校教育の活性化と新しい在り方を推進することが重要な課題になってきたということです。日本の学級規模は12～18学級の標準規模を中心としてきましたが、標準規模にすることも難しい地域も増えてきました。そして過疎地域の学校教育のあり方は教育の問題のみならず、地域の衰退にも影響し、地方崩壊か地方創生かという問題とも連動するようになってきたということです。

この様な中でへき研センターは、へき地教育研究をいっそう深化させるとともに、全国のネットワーク化と教育研究成果の全国的な普及が求められるようになってきました。このため学内における運営委員体制と事務局体制を強化しました。そして全国のネットワーク化を図るための全国的な組織体制を創ってきました。

2. 全国の大学間・学校間の全国ネットワークづくりとへき研センターの役割

(1) 全国的な研修・普及活動のニーズと社会的使命

へき地教育研究成果の全国的な普及が求められる中で、北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センターは、2010年代から徐々に北海道の研修だけでなく、全国的な研修・普及活動を拡大してきました。全国の大学や都府県教育委員会からも様々な研修依頼や訪問視察・調査依頼や出前講義依頼なども増えてきています。北海道教育大学が実施しているへき地校体験実習のやり方を導入し、各大学でミニ版のへき地教育実習の実施を検討している大学も増えています。このようなニーズの拡大を鑑みて、へき研センターも、全国的な役割を担うことを社会的使命として、ニーズに応えてきています。

(2) 日本教育大学協会内の全国ネットワークづくりとへき研センターの役割

へき研センターは、全国の大学のハブ的な役割を担うために、まず2019年に国立大学教育学部で組織している日本教育大学協会の中に、「日本教育大学協会へき地・小規模校教育部門」を創設しました。その部門会員数は、約110名強の教員で構成しており、徐々に増えています。へき地教育は元々あまり関心が高くない分野でしたが、少しずつ研究者の関心も広がっていることを示しています。

この日本教育大学協会では全国研究集会を毎年実施していますが、2019年度から「へき地・小規模校教育分科会」を設置していただき、研究集会でへき地教育研究の交流を進めることにしました。

(3) 国公立大学間の全国ネットワークづくりとへき研センターの役割

また私立大学の教員からも「日本教育大学協会と同様のネットワーク組織を作ってほしい」という声が寄せられ、2020年度に「全国大学へき地・小規模校教育研究会」を創設し、日本教育大学協会会員以外にもネットワークを拡大しました。これにより、国公立の各大学でへき地・小規模校教育に関心を持つ研究者や今後少人数教育・小規模校教育の研究を行いたいと思う研究者が情報交流できるようになりました。へき研センターには全国のへき地教育に関する情報・資料が集められ、それを再び全国に情報配信するようにしています。

また2021年度には、へき研センターの共同研究員制度を創設しました。今後共同研究員によるICT活用教育・少人数教育・複式教育・個別最適化教育・地域探求型教育・地域協働型学校経営等のへき地教育に関わる連続セミナーや全国的なプロジェクト研究調査等を予定しています。

全国のへき地・小規模校教育に関心を持つ教員は、全国各地に点在する存在でしたが、このようにへき研センターが全国ネットワーク組織を作り、全国ネットワークの情報交流・研究活動のハブ的な役割を果たす中で、全国の教員が相互に関われるようになってきています。研究交流・情報交流の中で各研究者の研究活動も発展していくために、今後ともネットワーク作りと相互の情報交流を進めていきたいと考えています。

3. 全国の学校を結ぶ「全国へき地教育研究連盟」と北海道教育大学との連携協定

(1) 全国の学校・大学の連携と「全国へき地教育研究連盟」との連携協定

これまでへき研センターは、大学のみならず「北海道へき地・複式教育研究連盟」や「全国へき地教育研究連盟」と連携し、様々な学校現場の実践的研究交流を進めてきました。北海道各管内でのへき地教育研究大会では、教職員・学生も参加し、現場での実践方法を学んだり、相互に情報を交換しながら新しいへき地教育の理念や方法を模索してきました。「全国へき地教育研究連盟」の全国大会・プレ大会にも毎年多くの教員を派遣して研究交流を深めてきました。

このようにこれまでも研究交流を進めてきましたが、2021年4月16日に、「全国へき地教育研究連盟」と北海道教育大学は連携協定書を締結し、新たに全国的な連携活動を強化することになりました。これは全国の大学のネットワーク化を進める北海道教育大学と、学校現場の全国ネットワーク組織である「全国へき地教育研究連盟」とが連携協定を締結することにより、全国の都道府県全体の学校・大学のネットワークを進めることを目指したものです。すなわち、全国の大学には徐々にへき地教育研究を進める研究者が増えてきていますが、それらの研究者が各都道府県内の学校現場と連携することで、各地域における大学と学校との連携も促進していくことができます。

(2) 全国の大学・学校に向けた研修活動と情報発信

全国的な少子化・小規模校化による少人数指導・個別最適化教育やICT教育のあり方などが大きな課題となってくる中で、北海道だけでなく、都府県のあらゆるところで、少子化・小規模校化の問題やICT教育への対応について、大学と学校が連携して進めなければならなくなっています。この全国の大学と全国の学校を結ぶハブ的な研修活動の役割を、北海道教育大学のへき研センターは、担う使命があると考えています。

今後「全国へき地教育研究連盟」とへき地・小規模校教育研究センターが連携して、共同研究員をはじめとした全国の教員によるオンデマンド研修講座や研究プロジェクトの刊行等を遠隔システムを使って進めていきたいと考えています。すなわちどこからでも発信し、どこからでも学ぶことができる研修システムを作っていく必要があります。それにより全国の学校や大学に研究成果を発信したり、若手教員等の人材養成を進めていきたいと考えています。

4. へき地・小規模校の経験によるへき地教育の担い手教員の輩出と全国の人材養成の交流

(1) へき地・小規模校の経験と若手教員の輩出

へき地・小規模校の教員の養成と定着は全国的な課題となっています。へき地の教員には、初めてのへき地の生活に慣れずに都会に住みたいという教員も少なくありません。またへき地・小規模校では、複式間接指導や少人数学級経営など、独自の指導方法が展開しており、これらの指導方法に一定程度慣れることが必要です。この様なへき地・小規模校での指導を効果的に進めるためには、少しでも学生時代等でそのような経験をするのが重要です。とりわけ学生時代の経験は、ある程度適応力が高く、急激に意識が変化できる基盤があります。

へき地・小規模校に赴任する教員の間でも、教員養成段階の学生時代にへき地・小規模校を経験したことがある教師と経験したことがない教師では、一般的にへき地・小規模校へのイメージや実践開発への意欲が異なると言われていています。すなわち学生の段階でへき地・小規模校を教育実習で経験したり、へき地教育に関する内容を講義等で習った学生は、へき地・小規模校への抵抗感も少なく意欲的にへき地教育方法の開発に取り組む傾向が強いということです。

またへき地・小規模校を学生時代に経験すると、少人数の子供たちと密接に触れ合う喜びを学生時代に経験でき、さらに少人数だからこそできる教育活動を経験することで、教職意欲を高める傾向もあります。そのためへき地・小規模校の経験は、へき地校の人材養成の役割を持つと共に、教育の発想や指導法の観点を広げ、市街地を含めた教職意欲や資質能力の向上にも繋がっています。

(2) へき地校体験実習の全国的な交流と全国の人材養成

北海道教育大学では、早くからへき地校体験実習に取り組んで来ました。また他大学でも少しずつへき地校体験実習を部分的に取り入れている大学が増えてきています。これらの大学の実習経験を相互に交流しながら、全国の大学でへき地・小規模校を経験し、へき地・小規模校の担い手になる教師を全国的に増やしていくことが期待されています。北海道教育大学では、「全国へき地教育研究連盟」とも連携しながら、全国的な少子化・小規模校化の中で、全国でのへき地・小規模校を経験した若手教員を増やしていきたいと考えています。

5. へき地・小規模校教育研究センターの研究成果の刊行と全国的な普及

(1) 学術誌『へき地教育研究』と実践的『へき地教育の手引』の継続刊行と全国的な普及

北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センターでは、戦後以来毎年『へき地教育研究』という学術紀要を刊行しており、すでに2020年度で75号を刊行しました。2020年度からは、「日本教育大学協会へき地・小規模校教育部門」会員の投稿権を拡大し、全国からの投稿ができるようにしました。すでに75号では他大学の研究者が何人も投稿しています。この『へき地教育研究』は、CiNii Articlesや学術リポジトリにも掲載されており、全国どこからでもダウンロードして閲覧できます。

また学校現場の若手教員や学生等にも参考になる『へき地・複式・小規模教育の手引—学習指導の新たな展開』（2020年度版）の改訂版を定期的に刊行しており、実践的な基本方法を指し示しています。これはへき地・小規模校教育研究センターホームページでも公開しているので、全国からダウンロードすることができます。この『手引き』を活用した全国のへき地・小規模校で勤務する教員や学生からも、「へき地教育の基本的な方法が理解できてありがたい」という声が寄せられています。

(2) 学術プロジェクト調査と報告書の刊行と成果の普及

へき地・小規模校ではICTを活用した遠隔双方向教育や自立的な学習活動・個別最適化教育も多く展開しています。そのため、へき研センターでは、令和2年度文部科学省「教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」を受託し、全国的なICT活用実態調査を実施しました。その研究成果を『学校教育におけるICT活用の可能性と教職キャリアキュラムへの反映を目指す実態調査報告書—へき地・小規模校を中心とした学校ICT活用調査および全国大学調査を媒介として—』（2021年3月刊）にまとめて、全国にも配布しました。この報告書の内容は2021年度からの全国GIGAスクール構想に対応するものとして、教育委員会・学校関係者からも歓迎されました。ICTを活用した遠隔双方向教育は、今後のへき地教育の遠隔性の課題を克服する重要な条件となるもので、へき研センターとしては、この分野の研究開発をさらに進めていく予定です。

また外国向けにも、実践的な成果を普及するために、HUE-RISE-Resource Series No1.No2として、英語版“Brief Introduction to Multi-grade Teaching in Japan”および“Practical Introduction to Multi-grade Teaching in Japan”も刊行し、ホームページで世界に発信し、開発途上国等で活用されはじめています。

この他に通信「へきけんニュース」を年15回ほど発行し、へき地教育の動向やへき研センターの活動等を紹介しています。これらの研究成果の普及や情報発信によって、全国のへき地教育研究者等への情報提供を進めています。

6. SDGs推進の中でのへき研センターの開発途上国に果たす国際的役割

日本の国際的な役割への期待も高まっていますが、その一環として、開発途上国の教育・文化に貢献するSDGsの役割も重要な課題となっています。その中で日本の高度なへき地教育研究・実践の成果の普及が開発途上国に貢献する役割が注目されてきています。

日本のへき地教育研究・実践の水準は、国際的に見ても高く、開発途上国では日本のへき地教育研究から学びたいという声が高まっています。JICAを通じて中南米や東南アジアなどの大学教員・教育行政職員・学校関係者によるへき地教育研修団が、毎年北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センターを訪問したり、研修講義を受講したりしています。また北海道教育大学の教員が東南アジアに招聘されたり、当該国の教育省と連携して現地指導をしたりしています。それにより現地のへき地教育の水準が上がったという国のレポートも寄せられています。

日本の中では、へき地・小規模校教育研究の専門センターがあるのは、北海道教育大学だけなので、必然的に外国からのへき地教育研修団は、北海道教育大学に集まってきました。このように国際的にもへき地・小規模校教育研究センターの果たす役割は大きくなってきています。

7. 全国へき地教育ネットワークづくりとへき研センターの結節点としての使命

このようにへき研センターは、全国的な少子化・小規模校化に対応して、全国唯一のへき地・小規模校教育研究の専門的研究施設として、全国の中核的役割を果たしていくことを使命としています。へき研センターはへき地教育研究や学校現場と連携したへき地教育実践センターとしても、全国の結節点としての役割を果たしつつあります。そして全国の研究者と実践家が連携しながら、へき地教育を担う若手の人材養成を進めています。

これらの研究・実践の成果をまた研究紀要や報告書等で全国に還元し、全国の研究・教育の水準を高めています。このような研究・教育の全国のハブ的な役割を示すことが、へき研センターの使命です。へき研センターは、今後とも全国のネットワークづくりと全国的な情報交換を進め、全国の研究・教育・人材養成の牽引的な役割を果たしていきたいと考えています。

そのためには、北海道教育大学の教職員および全国の大学や学校現場の教員のネットワークと支援が不可欠です。そしてその要として、へき研センターは、今後とも全国の結節点の役割を果たしていきます。日本の少子化・小規模校化の課題に対応するために、今後ともご支援・ご協力をよろしく御願い致します。